2026年8月14日

各　位

会 社 名　株式会社ティアフォー
代表者名　代表取締役CEO　加藤　真平
（コード番号：593A　東証グロース市場）
問合せ先　取締役CFO　阪口　聡志
（TEL. 03-4520-2315）

JST「次世代エッジAI半導体研究開発事業」への参画のお知らせ

当社は、国立研究開発法人科学技術振興機構（以下「JST」という）の「次世代エッジ AI 半導体研究開発事業」に参画し、自動運転レベル４向けのソフトウェア定義型システム・オン・チップ（System-on-Chip。以下「SoC」という）の研究開発を推進する取り組みを開始しますので、以下のとおりお知らせいたします。

記

１．プログラムの概要

・事業名：
JST「次世代エッジ AI 半導体研究開発事業」
・研究課題名：
高効率自動設計による次世代AI回路・システムにてユースケース駆動による機能分化型フィジカルAIチップ設計
・開発背景：
GPU（Graphics Processing Unit）をはじめとする高性能計算技術は、AIの急速な進化を支える中心的な役割を担ってきましたが、自動運転レベル４では、実世界および実時間の制約下でAIモデルを継続的に運用する必要があり、既存の高性能計算技術を補完しながら、電力効率だけでなく、適応性、透明性、および検証可能性をさらに高める新たなアプローチが求められています。
・開発内容の概要：
自動運転用オープンソースソフトウェア「Autoware」に対応した自動運転AIチップを独自に設計し、SoCに組み込んでその有効性を評価します。また、AIチップの論理設計に加え、コンパイラをはじめとするツールチェーンをオープンソース化します。

２．本件の意義

本取り組みを通して、当社が開発を主導する自動運転用オープンソースソフトウェア「Autoware」の設計思想をハードウェア（半導体）領域へと拡張します。「Autoware」が自動運転ソフトウェアの共同開発を可能にしてきたように、そのオープンソースの考え方をAIチップ設計やツールチェーンの領域へと広げることで、特定の半導体製品や閉じた開発環境に依存することなく、自動運転AI技術を継続的に改良・発展させられるエコシステムを築きます。

３．今後の見通し

本件が当期の連結業績に与える影響は軽微であると見込んでおりますが、特定のハードウェアに依存しない自動運転プラットフォームの確立は、「Autoware」のエコシステム拡大や当社の事業戦略上重要な

要素であり、中長期的な当社の企業価値向上に資するものと考えております。
　今後、業績予想の修正が必要となった場合、または公表すべき重要な事項が発生した場合には、速やかにお知らせいたします。

以上